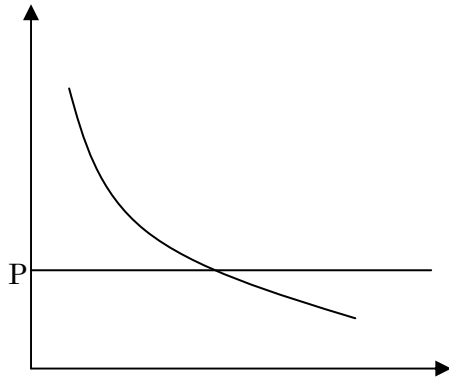


## 復習

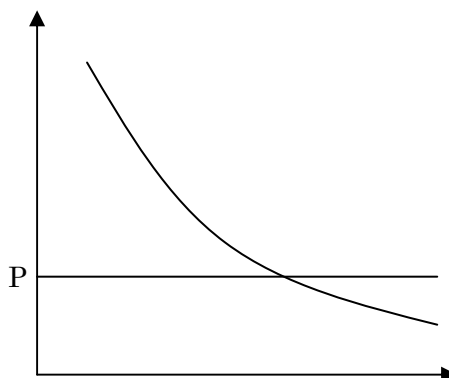
### 消費者余剰(consumer's surplus:CS)



追加的に購入するうちに財の価値が低下  
→払ってもよい値段の低下  
→満足度の低下  
→限界効用の低減

$CS = \text{払ってもよい価格} - \text{実際に払う価格}$

### 生産者余剰(producer's surplus:PS)

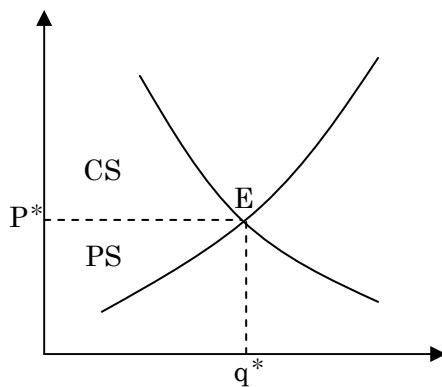


右上がりの供給曲線  
→財の追加的な生産に際して費用が逓増  
→限界費用(MC)の逓増

$PS = \text{実際の受取額} - \text{要求する受取額}$

総余剰(=社会的余剰) $= CS + PS =$ 市場取引によって生じた経済厚生

取引が均衡点  $E$  で行われているとき社会全体の経済厚生は最大化されている

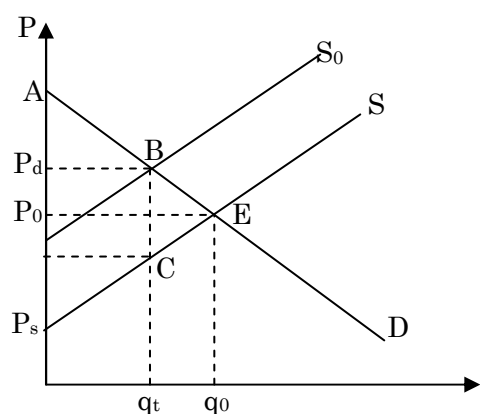


## 市場介入の例：税金

課税の形態 { 従価税（消費税など財の価格に比例して課税）  
従量税（大豆、小麦の輸入時の関税やタバコ税など財の量に比例して課税）

税の支払者 { 供給者(消費税など)  
需要者(所得税など)

### 生産者に納税義務がある従量税



納税者：生産者  
→財の数量に税を上乗せして供給  
→供給曲線の上方シフト  
→均衡点の移動（E→B）  
→価格の変化

課税前：P<sub>0</sub>で生産者、消費者が取引  
課税後：P<sub>s</sub>（供給価格）＝生産者にとっての価格  
P<sub>d</sub>（需要価格）＝需要者にとっての価格

### このとき CS、PS、総余剰の変化を考える

CS	課税前：AEP <sub>0</sub>	}	課税は供給者、需要者 ともに不利益を与える
	課税後：ABP <sub>d</sub> に減少		
PS	課税前：DEP <sub>0</sub>		
	課税後：DCP <sub>s</sub> に減少		

政府の税収：P<sub>d</sub>BCP<sub>s</sub>（＝ $t \times q_t$ ）

これは最終的には社会の厚生を高めるために使用される

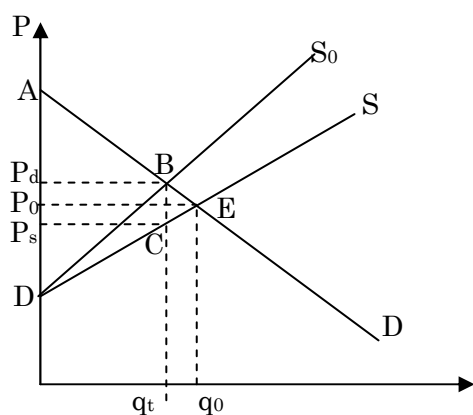
課税前の総余剰＝CS+PS＝AED

課税後の総余剰＝CS+PS+政府の税収＝ABCD

→課税後には BEC だけ総余剰が減少

→死荷重損失の発生(dead weight loss)

生産者に納税義務がある従価税



納税者：生産者

→財の価格に税を上乗せして供給

→供給曲線の傾き増加

→均衡点の移動 (E→B)

→価格の変化

課税前：P<sub>0</sub>で生産者、消費者が取引

課税後：P<sub>s</sub>（供給価格）＝生産者にとっての価格

P<sub>d</sub>（需要価格）＝需要者にとっての価格

このとき CS、PS、総余剰の変化を考える

CS 課税前：AEP<sub>0</sub>

課税後：ABP<sub>d</sub>に減少

PS 課税前：DEP<sub>0</sub>

課税後：DCP<sub>s</sub>に減少

課税は供給者、需要者  
ともに不利益を与える

政府の税収：P<sub>d</sub>BCP<sub>s</sub> (=  $t \times q_t$ )

これは最終的には社会の厚生を高めるために使用される

課税前の総余剰＝CS+PS＝AED

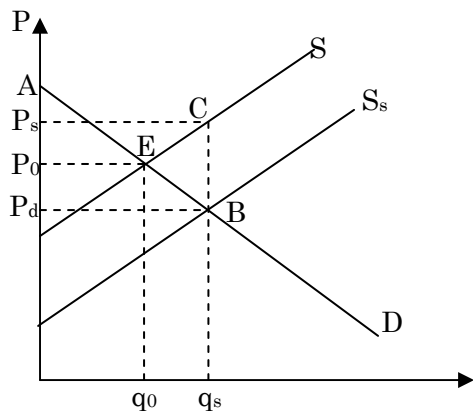
課税後の総余剰＝CS+PS+政府の税収＝ABCD

→課税後には BEC だけ総余剰が減少

→死荷重損失の発生(dead weight loss)

補助金効果

生産者に従量に応じて補助金



CS : AEP<sub>0</sub>→ABP<sub>d</sub>

PS : DEP<sub>0</sub>→DCP<sub>s</sub>

補助金 : P<sub>s</sub>CBPd = DCBF

総余剰 : AED→ABP<sub>d</sub>+DCP<sub>s</sub>−DCBF = AED−CBE

死荷重 : CBE